

米国製経営改善シュミレーションソフト視察レポート

1988年に米国ユタ州で開発された経営改善シミュレーションソフトに関するカンファレンス&トレーニングが、平成16年9月14日～16日、ユタ州ソルトレイクシティ・マリオットホテルで開催された。この経営改善シミュレーションソフトを、今後我々のコンサルティングツールとして有効活用する方法を模索・検討するために、今回のカンファレンス&トレーニングに参加し、情報の収集を行った。



14日から開催されたカンファレンス&トレーニングの内容は、スペースシャトル請負業者のユナイテッドスペースアライアンスやカナダ宅急便業者のカナダポストの代表者達が、それぞれ経営改善シミュレーションソフトをどのように活用したかを説明する全体カンファレンス、航空会社のデルタエアラインやユタ州立大学の代表者達による生産業者向けカンファレンス、そして我々が参加した医療従事者向けカンファレンスの3種類のカンファレンス&トレーニングが行われた。

我々が参加した医療従事者向けカンファレンス&トレーニングの内容を幾つか紹介する。



カンファレンス①

内容：Baylor Health Care System の手術部門設置の際に実施されたシミュレーションの紹介

Baylor Health Care System は、全米で 20 施設以上の関連病院や研究施設を持つグループである。今回のカンファレンスでは、近年に新設された Baylor グループの Baylor Regional Medical Center の手術部門を設置する上で行ったシミュレーションの紹介であった。シミュレーションの目的は、患者やスタッフにとって最適な場所に各諸室を設置することや、最適スタッフ数の把握、収容可能患者数の算出などであった。

まず手術室、カテーテル室、患者リカバリールーム、手術前患者控え室、内視鏡検査室など、新病院の手術部門で必要と考えられる諸室が配置されている図面のデータをシミュレーションソフトに入力し、その後、想定されるスタッフ数、想定されるスタッフ・患者の動線、1 日当りの想定手術患者数、1 日当りの想定獲得救急患者数などのデータを入力し、実際に手術室を運営した際のシミュレーションを行った。このシミュレーション行ったことにより、当病院の手術室における収容可能患者数や最適なスタッフ数、救急患者用ベッドを確保することの必要性、現状図面での問題点などが抽出・分析され、その結果を参考に、当病院における最適な手術室の設置に成功した事例であった。



カンファレンス②

内容：産婦人科の増床計画におけるシミュレーションの紹介

同じく Baylor グループの Baylor All Saints Medical Center では、近年、出産患者数の増加が続いている。そこで当病院では、産婦人科の増床や分娩室の増設を計画したのだが、具体的に何床ほど増床が必要なのか、分娩室を何室増やしたら良いのか、スタッフは何人増やす必要があるのか、採算は取れるのかなどの問題に直面した。そこで、当病院では、この経営改善シミュレーションソフトを使い、現状の患者数や将来的に獲得が予想される患者数、現状の患者・スタッフの動線などのデータをソフトに入力し、何床の増床が必要なのか、増床に伴う必要スタッフ数は、年間予想収益などについて分析を行った。また、工事期間中の既存施設の最適な利用方法のシミュレーションも同時に行っていた。このシミュレーション結果により、当病院では、根拠に基づいた病棟の増床や NICU の増床の計画が可能となった。

トレーニング

内容：シミュレーションを作成する上での注意点

二日目に開催されたトレーニングの内容は、医療系コンサルタントであり、看護師と一級建築士の資格を持つ Victor Lange 氏によるシミュレーションを作成する上での注意点の説明であった。Lange 氏は、コンサルタントと言う立場からシミュレーションを作成する上での注意点を説明して頂いたので、我々としても非常に参考となるトレーニングの内容となった。

細かなシミュレーションの作成方法はさて置き、シミュレーションの作成に失敗する理由の多くは、①シミュレーションを行う目的が漠然としている、②乏しいデータしか入手できない、③顧客とのコミュニケーション不足、④他の方法で解決できる内容を無理やりこのシミュレーションソフトを活用した場合などである。これらは、我々が今後、シミュレーションを作成する上で、注意しなければならないポイントである。その他にも、コンサルタントとして顧客にシミュレーション結果を報告する際の注意点や見栄えの良いパワーポイント資料の作成方法など、非常に参考となるトレーニング内容であった。

この他にも、軍事病院における医療材料の在庫管理についてのシミュレーションや精度の高いデータの入手方法、精度の高いシミュレーション作成方法などについてのカンファレンス&トレーニングにも参加した。

最後に、現時点で、この経営改善シミュレーションソフトを導入している日本の企業はまだ少なく、日本導入の先駆者となるべく、また我々のコンサルティングツールとして有効活用するためにも、引き続きこの経営改善シミュレーションソフトについて研究して行きたい。

